

## 新世紀のグランドデザイン

大村 恵美子

共々に新世紀を迎え、おめでとうございます。20世紀は、まさに自然破壊と戦争の世紀でした。にもかかわらず地球と人類は生きのび、失われた陸と海と空と多数の動植物の種を、心身ともに冒されながらもなお増殖しつづける人間われわれが、捨て身の努力で修復してゆくのが、新世紀の任務となります。

科学的な多くのデータが、人類の人口増加、食糧不足、核の危険、様々な分野での汚染、生命倫理の破綻、等々、緊急な世の終末のシグナルを伝えるなか、2000年は過ぎ、2001年が与えられました。各界の識者で、良心的であればあるほど、地球の終わりは近いという観測と認識に近づくのに対し、ニヒリズムの最たる現象として、刹那主義の楽天観で押し通そうとするのが保守層の教育的・政治的・道徳的指導者たちの態度であり、私たちがここで、ほら、世紀末は無事に終わったろう、なんのパニックも生じなかったろう、21世紀はより一層の発展と繁栄の世紀なんだ、と開き直るならば、それは上述の保守層に与するものと言えましょう。

### マイナスからゼロへの修復

戦争もあった、破壊もあった、地震も火山噴火もチェルノブイリも東海村もあった、しかし人類は繁栄することを約束されている種なのだ、という線で、あらぬ神風信仰で未来を押し渡ろうとしてはならない。それよりもまず、前世紀に私たちの残した負の遺産を、総力で元の状態にまで回復させてゆくことが先決です。長年かかってやっと豊島の産廃投棄物の山を崩す合意に達した事例のように、一つ一つの持ち場で、現状からの前進ではなく、現状から悪の落とし子の支配の断ち切りを、マイナスからゼロへの修復を、と踏み出すのが、21世紀の行動原則となるべきではないでしょうか。

旧きものへの回帰に郷愁をよせるなどということではありません。過去には、ユートピアのようなものは一度だってなかったのかもしれませんが。キリス

他者・自然・すべてのものに対する信頼が、自分たちの生の保証に不可欠なものだったということ、私たち一人一人が無意識的にも肯定し、よりどころとしているということが窺われるのではないでしょう。

新世紀のありようは、すなわち〈信頼の回復〉にあるのでしょ。子は親を、友は友を、若者は大人を、女は男を、南は北を、信頼できるようになって、戦い争いは避けられるのです。

### 後援会会計も赤字解消から

少しこれまでの内容とはぴったり来ない話になるかも知れませんが、私たちの東京バッハ合唱団の運営に関して、私は最近つよく感じたことをお伝えしたいと思います。

ご承知のように、私たちの合唱団は、なんの経済的よりどころもなく、自然発生のような形で生まれて、来たる2002年には40周年を迎えるような、ゆるぎない歴史をうち立てて来ました。創立後まもなく後援会ができ、これも組織とも言えないような、会長も事務員も一人も存在しないようなプリミティブな形で、合唱団の存続に大きな役割を果たしてきました。その運営について、どなたからも提案・要望・忠言・指導など一切なく、いわゆる「金は出しても口は出さない」典型的なあり方で、続いて来たのです。

私は、当初年額1口10,000円、1992年からは12,000円の会費をいただくほかは、これまでに数回、海外演奏旅行などの、大きな資金が必要な時に限って、臨時に寄付のおねがいをしてきましたが、多くの団体・組織のように、夏季・冬季・年末・創立記念年など様々な機会に、会員の方々に呼びかけるようなことを、なるべく避けてきました。

どちらかといえば、常態として慢性赤字状態の時期が多かったのですが、それは、赤字といえば主宰者たる私が負うことにほかならず、主宰者はそのく

らの覚悟でいるのは当然、という認識で、赤字がかさむときには、個々の支出の立替え分の領収書を、主宰者の判断で適時握りつぶして過ごす、ということも多かったのです。

赤字については、合唱団会計、演奏会会計が負いきれないような、大きな支出の負担を、後援会が引きうけるという例も多く、予期せぬ大支出という出方なので、後援会自体は、年ごとの予算など一度も組んだことはありません。そういう柔構造で、これまでやって来たのです。

### 後援会員の皆様に打ち明けて

2000年11月、私は思い立って、次のようなお手紙を、後援会員の皆様にお出ししました。それは、当時の赤字約30万円を、もしこのまま年を越すようならば、100年に1度しかない、また合唱団には初めての新世紀という節目に、赤字でそれを迎えるというのは美しくない、主宰者たる私が、同額を寄付ということで、ゼロにして新しい会計簿を始めよう、とまず考えたのです。けれども、それならば、支出を計上せずに、赤字を目立たせないで来た、これまでの私の手法と変わるところはない。今回はむしろ、別に差し迫ったイベント資金のような目的があるわけではないが、せめて後援会の方々だけにでも率直に打ち明けて、ご賛同いただけた方々から自発的なご喜捨をおねがいし、その上で、不足分を、私もその一員としてつけ加え、赤字なしの状態にして、2001年を始めよう、と考え直した結果でした。

### 後援会の皆様

2000年も残り少なくなり、まもなく21世紀の幕あけを迎えようとしております。

後援会の皆様には、多難な時代を、東京バッハ合唱団の進展と共にどうぞいただき、私どもとしては感謝のほかはございません。

さて、それぞれに、新しい世紀を迎えるにあたっての抱負をいただきながら、この年を終えるわけですが、私にも一つの課題がございます。それは、12月中に合唱団・演奏会・後援会、これら三つのそれぞれの会計を、赤字を持ち越さず、何らかのプラスの状態に、21世紀を迎えるということです。

団会計は、これまで1年ごとに可能な範囲で予算を組んできておりますので、問題はなく、

定期演奏会会計も、収支すれすれの線でまとまることが多く、しばしば若干の赤字も出ますが、今回の定期演奏会(12月10日)は、思わぬご寄付に恵まれたり、支出の節減が重なったりして、見通しはあかるいようです。

後援会は、団と演奏会の会計で補填できないような支出を負担する役割もつねに果たしてきましたので、きびしい結果がつづくことも多くありました。

1998年、私の、合唱団長期計画に関するアピールに応じて、十数名の方々が、10年間の後援会費を前納してくださるということがあり、そのおかげで、一挙に永年の赤字から脱出することができ



THE FLIGHT INTO EGYPT, FRA ANGELICO (c1387-1485)

ました。

その後、ドイツ演奏旅行、ドイツからの先生方の来訪、「新バッハ全集」の完結に近づく大量配本、その他、通常の団会計では消化しきれないほどの支出を後援会で引き受けたため、いったんは正常化した会計が、2000年11月末現在では、約30万円の赤字に戻っています。

会費ご継続の見込まれる方々が、この12月で約25名(約30万円)数えられますので、なるべく年内に御送金いただければとねがっております。

また皆様にも額の多少にかかわらず年末ご喜捨をいただけるようでしたら、後援会として、ひいては合唱団全体が、赤字を解消した、新しい状態で新しい世紀を迎えることができるでしょう。国全体が大きな困難の中にあるこの現状で、たいへん恐縮なおねがいではございますが、有終の美の実現に向かって足取りを進めようとしている私たちに、あとひと押しのご支援を賜りたく、ここにつつしんでおねがい申しあげます。

なお、これは近況の大まかなご報告も兼ねて、後援会員の皆様(現会員・名誉会員の別なく)に一律にお送りいたしますので、すでに御送金を終えられたり、様々なご事情にある方々などに失礼な段もあるかと存じますが、その点はそれぞれにご判断いただいております。おねがい申しあげます。

2000年11月27日

東京バッハ合唱団 大村恵美子

### 津波のような反響

ところが、この郵送文が発送された2日後から、続々と振込みが届き、その多くは、日頃の月報をおもしろく読んでいます、何か支援をと考えていた矢先に、とか、一言のおはげまし、感謝のおことばを

添えて、私の予期していた1000円単位から、数万円という高額まで、12月末までの1ヵ月間に45名、554,000円という驚くべき反応となり、後援会費の早期納入も加えて、年を越してもこの勢いは連日止まらないでいます。

私はほんとうに感動しました。定期演奏会に、毎回ご来聴の方もあります。遠隔の地で、一度もお聴きになれないでおられる方もあります。無駄と思われ方も多いかもかもしれませんが、毎月発送する月報等を通じて、これらの方々が、私の心に何らかの共鳴を感じてくださり、共に参加する喜びを感じてく

将来への期待が、私たちの演奏活動を生かす、大きな大きなエネルギーとなってゆくことを思って、新年の第一歩を踏み出そうと思います。

## 後援会 会計報告 (2000年7月～12月)

	7月～9月	10月～12月
<b>収入</b>	<b>298,800</b>	<b>1,139,000</b>
内訳 後援会費	276,000	549,000
寄付	22,800	590,000
<b>支出</b>	<b>541,023</b>	<b>612,678</b>
内訳 事務局費補助	210,000	210,000
渉外費	52,150	77,000
通信費	92,580	157,209
事務費	186,293	116,881
雑費	0	51,588
<b>差引</b>	<b>△242,223</b>	<b>526,272</b>
前期より	△145,607	△325,388
<b>累計</b>	<b>△325,388</b>	<b>200,884</b>

### 【継続会員】

長井しのぶ、内田美枝子、斎藤繁儀、市川由紀子、出口禎子、荒井せつ子、宮崎恭子、渡辺美恵子、務台孝尚、高村明子、高野京子、渡辺ひろ子、宮田親平、丸山真人、鈴木 靖、黒田みつ子、加藤剛男・よし子、松井啓子、井原邇子、小杉茂雄、小口幸成、萩生羊子、吉井 修、松原典子、長谷川田鶴子、荻津雅夫、川戸龍夫、武藤京子、青田 健、重籐栄子、

## 後援会 年間収支報告

	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度
<b>収入</b>	<b>1,717,000</b>	<b>2,581,500</b>	<b>2,128,500</b>	<b>2,044,000</b>
内訳 後援会費	1,575,000	2,428,000	1,964,000	1,378,000
寄付	142,000	153,500	164,500	666,000
<b>支出</b>	<b>1,816,722</b>	<b>1,984,814</b>	<b>2,055,026</b>	<b>2,043,937</b>
内訳 事務局費補助	1,080,000	1,170,000	840,000	840,000
渉外費	207,000	98,600	342,280	187,214
通信費	316,813	252,802	435,585	428,466
事務費	182,909	231,681	337,161	436,449
諸会費	30,000	0	100,000	0
雑費	0	231,731	0	151,808
<b>差引</b>	<b>△99,722</b>	<b>596,686</b>	<b>73,474</b>	<b>63</b>
前期より	△369,617	△469,339	127,347	200,821
<b>累計</b>	<b>△469,339</b>	<b>127,347</b>	<b>200,821</b>	<b>200,884</b>

布施靖子、豊田雅子、河野龍次郎、本郷容子、安原美世子、植田高弘、村松政子、野田富夫、三浦多佳子、小林まさ子、猪狩恭子、松尾正子、宮島信子、田中玲子、楠 芳枝、岩瀬房子、岡本シゲ子、小島陽子、阪根隆司、荻野真喜子、長井しのぶ、箕浦正敏、高橋浩子、山本順子、西村清志、山本恵子、G・ワルブレヒト、板木 亮、落合武四郎、山本裕子・栄子、澤田 望、大切幸一

### 【新入会員】

近藤 命

### 【寄付】

山本裕子、安原幸子、藤田玲子、斎藤繁儀、田辺たつ子、植田高弘、猪狩恭子、森井 眞、森泉百合子、吉田佐貴子、青田 健、藤田光男、福田花子、大村健二、福田 薫、桂 邦男、務台孝尚、花井鉄弥、楠芳枝、岩瀬房子、光野孝子、深町テル子、吉沢和彦、阪根隆司、中山絹子、大滝政昭、荻野真喜子、桜井和子、箕浦正敏、高橋浩子、白木博也、渡辺美恵子、松原典子、松川成夫、後藤 篤、宝亀泰男、国吉三郎、森本 隆、瀬底恵子、勝沼 淳、青木道彦、山田弘子、安本拓治、平松 操、中村久子、稲本佑子、橋本喜久子、澤田 望、丹治めぐみ

### 【切手多数】

瀬底恵子、天田 繁

# 21 世紀の年賀状

新しい世紀も

主に向かい新しき歌を歌いましょう

大橋敏成

頃 2001年

バッハ合唱団の発展を祈ります。

謹賀新年

皆様方にはご清祥のうちに新世紀をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は6回の演奏会に出演しましたが、特にバッハ・イヤーの年でヴィンチャーマン指揮のクリスマスオラトリオと岡山ポリフォニーアンサンブルのマニフィカトという華やかな名曲を演奏する機会に恵まれたことが印象に残っています。後者では、貴団からお譲りいただいたオルガンが大活躍を致しました。残念ながら、昨年も貴団の演奏会にお伺いすることが出来ませんでした。今年はずいぶん聴かせていただきたいと思っております。

末筆ながら、貴団の今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。

坂本尚史



精木 勇

21世紀を迎えましたこの意味深い新年に、バッハ合唱団をこよなく愛しておられる皆様に、つつしんで御祝詞を申し上げます。

毎回のバッハ合唱団のコンサートで、私が感じさせていただいております、あのさわやかな気持ちを、今年も私の励みにして、この新しい世紀にも頑張っていきたいと思っております。

皆様のご健勝と合唱団のすばらしい活動とをお祈り申し上げます。

青木道彦

東京バッハ合唱団の皆様

あけましておめでとうございます

20世紀から21世紀へとバッハの曲を歌いつがれる皆様、日本語訳の歌は、歌うもの、聴くものに親しみをもたらします。これからもバッハの心を歌にこめて歌ってください。

私も共に歌わせていただきます。

宇佐美桂一

記念すべき新世紀の始まりのごあいさつができませんことを心より感謝いたします。

主はあなたに告げられた：

人よ、何がよいことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。

それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。

(ミカ書6:8)

バッハ合唱団の魂と共に歌わせていただける至福の時を楽しみにしております。

佐々木まり子

バッハ様

新世紀の初頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。

あなたは、いつも私達人間共の貧しい心の中に、大なる豊かさと靈感をお与えなされ、つかの間の幸福を味わわせて下さいました。

そのお受けした喜びの、あまりの大きさの故か、感謝の言葉を捜し得ない、もどかしさを恥じるばかりです。アンナ-マグダレーナ様にも、よろしくおつたえ下さい。

白木博也

謹賀新年

昨年はリサイタル等本当に有難うございました。  
21世紀に送る言葉が、何だか浮かんできません。きっと無念無想で行くと思います。よいお年を！

平良栄一

謹んで新春のお慶びを申し上げます

自己の生活の中、BACHと向き合い、音楽を共に出来る合唱団のおひとりおひとは、世界一の宝を大切に手の中に守りつづけていらっしゃるようなものです。

それこそが幸せな時の流れ！では？

田中奈美子

謹んで新春のお慶びを申しあげます

昨年末クリスマスオラトリオを満員の盛況にて熱のこもった演奏会、大変感動致しました。

本年も心にしみるバッハの音楽をお聴かせ下さいませ。年頭にあたり、先生、団員の皆様の御健康と御多幸を祈念申しあげます。

花井鉄弥 友子

A HAPPY NEW YEAR 2001

バッハイヤーの昨年は、こんなに沢山のバッハファンがいらっしゃることを知り心強く思いました。

新しい年も、バッハ合唱団のご発展をお祈りいたします。

原田知子

「クリスマス・オラトリオ」楽しく聴かせていただきました。

バッハ合唱団の活動を見ていると、「継続は力なり」を実感いたします。私自身も昨年からは明治学院バッハ・アカデミーを立ち上げたので、大村先生の御苦労の万分の一かは実感できるようになりました。そしてもちろん喜びも…。

樋口隆一

謹賀新年

主のご降臨を祝い、新年のうえに神の祝福が豊かにありますよう祈ります。

新年の聖句「知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。」(コロサイの信徒への手紙2

章3節)

宝というものの多くは隠されています。宝を見出す方法も隠されており、発見するには時間を必要とします。それだけに宝を発見し、宝を獲得できた人は幸いな人です。(ヘルンフト兄弟団「日々の聖句」序文より)

松山与志雄

明けましておめでとうございます

昨年のいろいろな経験を生かし、今年は飛躍の年となるよう、がんばります！

どうぞ今年も宜しくお願い致します。

光野孝子

21世紀の皆様の新しい歩みの上に、主のかぎりない御祝福がありますよう、お祈り申し上げます。

神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与え給え。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの落ち着きを与え給え。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、見分ける知恵を授け給え。(ラインホルド・ニーバーの祈り)

今年もよろしくお祈りいたします。

森 彬

あけましておめでとうございます。

20世紀にはたくさんの美しいバッハを聴かせて下さって有難うございます。

21世紀にも、つねに変らぬバッハが、新しい響きで歌い続けられますよう、貴合唱団の御活躍を楽しみにしています。

森井 眞

誰が時を決めたのだろう

本当は無いのかもしれない

今在ることだけ

それでいいのでは、感謝！

渡邊 明

20世紀から21世紀へ！

夢と願いを込め、この度の元旦を、何か記念する日々にしたいと思い、12月31日から4日間、窯の火

を入れることにしました。薪の焔に作品が包まれているのを見守りながら新しい世紀を迎えます。

東京バッハ合唱団の歩みと進展は、大村さんの絶え間ない行動力によって支えられています。今年もいっそうの活躍を期待しています。彼女の活躍は、それを見て嬉しく、私の励みにもなっています。

陶芸（泉窯）渡辺朝子

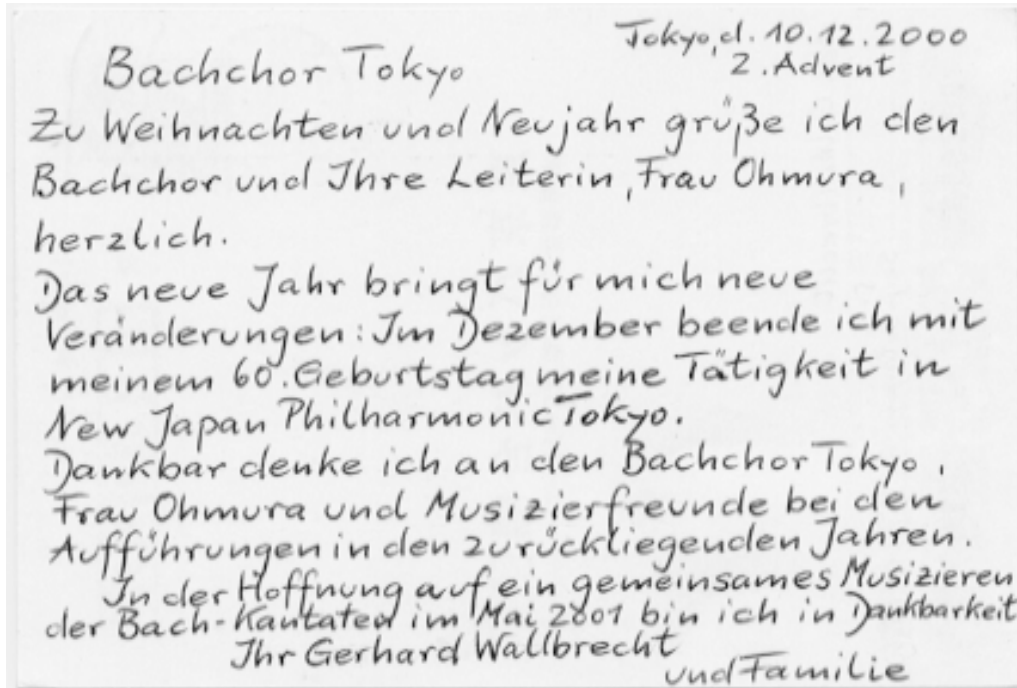
東京バッハ合唱団の皆様と、指揮者の大村恵美子様、心からクリスマスと新年のごあいさつを申しあげます。

私にとって、新年は、あたらしい変化をもたらします。12月には60歳の誕生日を迎え、私の新日本フィルハーモニーの仕事も終えることになるのです。

東京バッハ合唱団で、大村様や音楽の仲間たちと一緒に長いあいだ演奏してこられたことを、感謝しています。

2001年5月の定期演奏会でも、バッハのカンタータをご一緒に演奏させていただけることを、期待し、感謝しています。

ゲルハルト・ワルブレヒト  
家族一同



## オーボエの協演者・木原敬三氏とのお別れ

(12月定期演奏会の仕上げにのぞんだころ、長年美しい音色と正確なバッハの音楽づくりで、私たちのステージを毎回のように盛り上げてくださった、木原敬三氏の訃報が届きました。地上で奏されるバッハの音楽を、天にまでたずさえてゆかれたような気がいたします。私たちの音楽のいとなみを、今後もどうぞお見まもりくださいますように。)



【原文ドイツ語】

## 大村先生、東京バッハ合唱団の皆様

木原 桃子

このたびは、いろいろご心配をお掛けしたうえに、暖かいお手紙を、ありがとうございました。もう一度オーボエを吹くことを夢見て、最後まであきらめず、闘病していましたが、残念ながら叶いませんでした。

バッハ合唱団の仕事は、仕事というより違った感覚でとらえていまして、日頃オケの譜面は持ち帰らないし、吹くよりリードをけずってばかりでしたが、“Bach”のは家でも熱心に練習しておりました。

ドイツでは、小さな教会などでカンタータなどよく吹く機会もありましたが、日本ではなかなか無く、その点でもマタイやらヨハネ、その他の曲など、良い経験をさせたいいただき、私からもお礼申しあげます。大村先生はじめ皆様の熱意にいつも感服しております。これからもどうか良い演奏を…。

またもう一度、主人が皆様と一緒に過ごさせていただいた時間に対し、心より感謝申しあげます。

本当に長い間、有難うございました。

## 半年を振り返って

大橋 良子 (ピアニスト)

12月16日土曜日の午後、ミニコンサート形式のアウトホームな雰囲気のカリスマス会が開かれました。定期演奏会が終わったばかり、冬のお休みを迎える前のなんとも和むひとときでした。その余韻が残るなかで、私が東京バッハ合唱団に通い始めてからの数ヶ月を振り返らせていただきます。

5月20日、それは楽譜にも記されているように、大村恵美子先生の日本語による合唱団出版局発行「バッハ・カンタータ50曲選」第1期の刊行日です。大村先生の作品が合唱団オリジナルの楽譜として出版された記念日と言えるでしょう。実は、その日は私にとっても、伴奏ピアニスト内山亜希さんのピンチヒッターとして合唱団の練習に初めて参りました忘れられない日であります。内山さんのご紹介というだけで信用してくださり、伴奏ピアニストの1人として通わせていただくことになりました。

この数ヶ月のなかには様々な行事がありましたが、強く印象に残っているのは、まず9月にはいり間もなく催されたアンメ先生歓迎演奏会です。春にご長男を亡くされた先生ご夫妻のために捧げられた、原語によるカンタータと小ミサ曲。音楽が心を伝えること、またそれが伝わることを実感できる美しい時間でした。また私事ですが、アンメ先生が牧師をなさっているベルリンのケペニックには少しの間、住んでいたことがあり、不思議なご縁を感じる一日でもありました。

そして特筆すべきは12月の演奏会。本番当日は、ピアノで弾いてきた音を、客席からオーケストラで聴くことができると楽しみにしていましたが、お誘いをありがたくお受けすることにし、合唱に参加させていただきました。楽器と声の両方の立場から曲と向き合うことによって、身体の中でうまく何かがつながったというような、言葉で現しようのない感覚を味わいました。また何より、長年歌われている団員の方々に混ざってオケと歌う心地良さ。

確かに、外国語に付けられたメロディーを日本語で歌うのは難しいことでしょう。けれど、母国語である日本語で歌うことが意味をもつ以上、音と言葉とが馴染むように時間をかけて歌い込むことが大切であり、それにより歌い手にとっても聴き手にとっても、より自然な演奏となる可能性があるかと、実感として今回学ぶことができました。これは40年近い歴史をもつ合唱団のなかでこそ、できた貴重な体験と思います。参加させていただき、ありがとうございます。

いました。心よりお礼申しあげます。

2000年はバッハ記念の特別な年でしたが、合唱団関係者には新しい年になっても変わらず、毎日が「バッハの日」という方が多いのではないのでしょうか。そのような方々のなかで、これからもひきつづき勉強させていただきたく思います。よろしくお願いたします。

## 2000年クリスマス会開催 (報告)

島津 欣矢 (団員)

2000年12月16日(土) 15:30~17:30、世田谷中央教会1Fで、東京バッハ合唱団のクリスマス会が開催されました。(出席者:大村先生、西川裕子様・豪様、星野 亮様・繭様、団員18名、計23名)

当日まで、幹事の川合さん(ソプラノ)を中心に、幹事の藤沢さん(アルト)、島津等で準備をすすめ、当日は世田谷中央教会のご厚志で、教会のクリスマス会のためセッティングされた会場をそのまま使わせていただくことができ大変助かりました。当日は14:00より、川合さんを中心に女性団員の方々が、サンドイッチ、ケーキ、果物、コーヒー等お飲み物を手際よくご用意され、大変立派な会場に仕上がりました。

司会は、加藤さん(バス)の名調子、(最早そのお年頃になられた?)大村健二さん(テノール)の音頭による乾杯で、最初から楽しく盛り上がり、大村先生および荒井さん(ソプラノ)からの、演奏会・後援会共の黒字達成等、良いことづくしのお知らせの後、恒例のミニコンサートにうつりました。

今年のミニコンサートは、お客様の星野亮様・繭様、西川豪様、8名の団員、そして飛入りで当教会の安藤牧師先生が、各々大変見事な演奏をなされ(プログラム参照)、内容も声楽、弾き語り(ギター、ピアノ)、器楽(トランペット、フルート、ヴァイオリン等)と様々で、午後のひとときを存分に堪能できたことと存じます。そしてピアニストの大橋良子さんが、4名の団員の“無理な”お願いを快諾され、歌心あふれる素敵な伴奏をしてくださりました。これら盛り沢山の内容を、司会の加藤さんが該博な知識に裏づけられた楽しいお話で紹介され、間に今年の合唱団10大ニュース(後記)をはさみながら手際よく進行され、見事2時間の制限時間に収められたのは流石でした。

さて、今年は例年と違うことが2つありました。1つは、会場と日付が、定演の次の月曜の目白聖公

会（18:30～）から、土曜の世田谷中央教会（15:30～）に変わったことです。過去2回と今年の幹事としての経験では、今年の日時のほうが、余裕をもって準備ができ、当日の準備も沢山の方で早くからでき、断然楽にできました。来年以降も今年の方が良いと思います。

もう1つは、交換プレゼントをやめ、会費の中からお客様と、大村先生、お2人のピアニストにプレゼントをさし上げる形としました（金額の多寡の問題はありますが）。この方式も、素晴らしい演奏や日頃のお礼として、良いことではないでしょうか。

最後に、簡単ですが、今年の会の会計報告をしますと、収入23,000円（1,000円×23名）、支出21,025円（飲食代、備品、プレゼント代他）、差引1,975円の黒字でした。

末筆ながら、本会のため多大なご協力等いただきました世田谷中央教会（特に安藤先生）、団員、出席者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

### 2000' クリスマス会ミニコンサート プログラム

- ① 荒井（S）ピアノ独奏  
シューベルト「セレナード」
  - ② 島津（T）独唱（P：大橋）  
バッハ宗教歌曲集より「おおイエス君 柔和の子」  
イタリア古典歌曲「いとしき絆（Caro laccio）」
  - ③ 柳沢（T）独唱（P：大橋）  
「聖なる都」
  - ④ 川合（S）ギター弾語り  
シューベルト「アヴェ・マリア」  
「Oh Holy Night」
  - ⑤ 星野 繭 ピアノ独奏  
シューマン「夢」  
ベートーヴェン「バガテル」
  - ⑥ 星野 亮 ピアノ独奏  
ショパン「マズルカ」  
ショパン「ワルツ」
- ☆東京バッハ合唱団、今年の＜10大ニュース＞発表（加藤）
- ⑦ 山口（B）トランペット独奏  
ロシア・シリーズ「4羽の白鳥」「黒い瞳」
  - ⑧ 安藤先生 独奏  
Zahoon（竹笛）「アメイジング・グレイス」  
リコーダー ヴィヴァルディ「四季」より「冬」
  - ⑨ 渡辺（B）フルート独奏（P：大橋）  
バッハ「管弦楽組曲」第2番より「メヌエット」  
テレマン
  - ⑩ 金子（S）ピアノ弾語り  
グノー「アヴェ・マリア」
  - ⑪ 加藤（B）独唱（P：大橋）  
ヘンデル「メサイア」より「The Trumpet shall sound」
  - ⑫ 西川 豪 ヴァイオリン独奏  
バッハ「無伴奏ヴァイオリン・パルティータ」より
  - ⑬ 全体合唱（P：大村）「牧人 ひつじを」

### 東京バッハ合唱団 2000年 10大ニュース

加藤 剛男（団員）

- ① バッハ没後 250 年記念にふさわしい大事業である大村恵美子先生による『バッハ・カンタータ 50 曲選』日本語訳出版が始められた。これはブライトコプフ社との契約によるもので、全国の主要楽器店店頭に並べられた。この事業により、日本におけるバッハ音楽の普及が一層深められる。
- ② 12月10日（日）、東京バッハ合唱団第88回定期演奏会が大成功裡に終わる。聴衆もほぼ満席で、数年ぶりで黒字決算の演奏会となり、20世紀を終えるにふさわしい結果となった。
- ③ 9月9日（土）、バーバラ、グンドルフ・アンメ牧師ご夫妻来日歓迎特別演奏会が、世田谷中央教会で開かれた。カンタータ106番、ミサ曲ト長調を原語で演奏し、ご夫妻は涙を流して聴いてくださった。アンメ牧師によるメッセージは、聴衆に感動をあたえた。
- ④ 東京バッハ合唱団は、今年で創立以来定期演奏会を88回開催した。これは、日本におけるバッハ演奏（合唱曲）では最高の演奏回数を誇り、質量ともまことに輝かしい実績を残した。
- ⑤ 新入団員が多数入団された。S4名、A3名、T4名、B4名の合計15名（臨時団員含む）で、特に強力なテノールの方々が入団され、12月のクリスマスオラトリオでは、ソリストの先生方から、男声が素晴らしいとお褒めの言葉をいただいた。
- ⑥ 7月3日（月）東京バッハ合唱団創立38周年記念懇親会は、バッハに造詣の深い4名の後援会員のパネラーにより、「私のバッハ体験」が語られ、バッハの音楽について、新しい角度から理解が深められた。
- ⑦ 夏の野尻湖合宿で、室田悠介君（4歳）が湖に落ち、団員が数人飛び込んでも助けられず、野尻湖ハウスに泊まっていた若いお父さんが飛び込んで悠介君を助けてくれた。大きな事故にならず、ホッと胸をなでおろしたが、合唱団として幼い子供の監視体制が不十分であったことを大いに反省し、来年からはきちんとした体制をとることを確認した。
- ⑧ 10年に1度というオーバーアマガウの受難劇が、今年ドイツで開催され、大村先生ご夫妻、つづいて3名の団員が観てこられ、月報にその報告記事が掲載された。
- ⑨ 東京バッハ合唱団に、団創設以来初めて、お医者さんが入団され、2人の看護婦さん、練習前の山下式体操等、団員の健康管理が保障された。
- ⑩ 団員の室田ご夫妻、アルトの山本恵子さんに、それぞれお子さんが与えられ、将来のカルテット、トリオ演奏が楽しみである。